

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成 24 年 10 月 4 日(木)

児童 浜中町立〇〇小学校

男子4名 女子4名 計8名

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 「くりかえしのなかでのもりあがりを想像する～もう一つのきつねの行動づくり～」

教材名 「きつねのおきやくさま」

2 教材の目標

【読むこと】 場面や登場人物の行動を見つめながら、中心人物の気持ちを想像する。

3 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

○お話に興味をもって読み、進んで自分の意見を言ったり、表現したりしようとしている。

【読む能力】

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けながら、声の大きさ、調子などを工夫して読むことができる。

○繰り返しの場面のなかでの登場人物の行動や会話をもとに、きつねの行動について想像を広げて読むことができる。

○場面の登場人物の行動のなかで大事な文や語を書き抜き、また書き足すことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

○文中の主語と述語の関係に注意して読んでいる。

○様子をあらわす言葉を理解し、身振りで表したりしながら読んでいる。

4 教材観

本単元は学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」に基づき、指導事項ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を受けて設定されている。本単元では、繰り返し表現について意識的に着目させ、その表現の変化から登場人物の気持ちの揺れ動きを感じ取り、想像を広げながら読むことを目指している。中心教材となる『きつねのおきやくさま』は、中心人物であるきつねが、はじめはひよこを「えさ」として助けたものの、きつねを疑うことなく慕う純粋な動物と関わっていくなかで気持ちに変化していくさまが、繰り返し表現のなかでわかりやすく語られていく教材である。

5 児童観

《 省 略 》

6 指導観

本単元では児童の学習経験から、単元を貫く言語活動を「きつねのおきやくさまの場面カードを作ろう」と設定する。「場面カード」は繰り返しの場面のきつねの行動を想像して書き足し、絵と文で表す活動である。まず、単元の導入では、「おおきなかぶ」のほかいくつかの、繰り返し表現のある物語についてイメージを持たせる。また、教師の場面カードの読み聞かせを行うことで、本教材への関心と終末の言語活動への意欲を高めていく。次に、「だれが」「何をした」などの読みの観点をもとに繰り返し表現のなかでのちがいを整理し、物語のあらすじを捉えていく。あらすじを捉える過程のなかできつねの行動や様子を整理していき、その後のきつねの気持ちを読み取る観点として活用させていく。またあらすじをつかんだ後、「はじめ」と「おわり」の間にはきつねの気持ちが大きく変わっていることに気付かせ、その後の読みへの学習のつながりを持たせたい。きつねの気持ちの読み取りでは、ワークシートを活用しきつねの「脳内マップ」を作る活動を行う。「脳内マップ」作りとは頭の中を空欄にした図に、きつねの気持ちの高ぶりを自分なりに色で表す活動である。あらすじで確認したきつねの様子などを根拠にして読み取らせていきたい。自分なりにきつねの気持ちを想像して表現を工夫していくなかで、「ころびそうになった」→「五回もつぶやいた」→「きぜつしそうになった」のように、繰り返しの場面の行動にそって物語が盛り上がり展開していていることに気付かせていきたい。

7 指導計画

	○学習活動	言語活動	評価規準			◇学習活動における具体的な評価 ●努力を要すると判断される児童への支援	
			関	読	言		
1	<p>○繰り返しの場面についてのイメージをつかむ。</p> <p>・物語文「おおきなかぶ」「3びきのくま」などの読み聞かせを聞き、本のなかには繰り返しの場面が多く使われていることに気付きながら読む。</p> <p>■読んでもらった本には、似たような場面があるよ。</p> <p>■似ているけど、少しずつ違う気がするよ。</p> <p>○「きつねのおきやくさま」の読み聞かせを聞く。</p> <p>・大段落(一)(二)(三)が繰り返しになっていることに気付く。</p> <p>■このお話も似た出来事が繰り返されているね。</p>	読み聞かせ		○		<p>◇繰り返しの場面について気が付いたことなどを、友だちと話し合おうとしている。</p> <p>●個別に、物語のあらすじなどを振り返らせながら、具体的な場面や描写に着目させる。</p> <p>●児童の気づきや考えをもとに、絵本の繰り返し場面を振り返っていく。</p>	
2	きつねのおきやくさまの場面カードを作ろう				○		◇本単元の課題を知り、自分なりに興味を持ったことなどを、積極的に話し合おうとしている。
	<p>○「3びきのこぶた」のあらすじを確認する。</p> <p>○教師が作った「3びきのこぶた」の場面カードを読む。</p> <p>○本単元の課題意識を持つ。</p> <p>・場面カードの表紙を作る。</p>	発言 話し合い		○			

3 4 5	○繰り返しの場面を中心に、物語のあらすじをつかむ。 ・物語のあらすじについて以下の観点についてまとめる。 ①だれと会ったか ②何と言われたか ③きつねの行動 ・あらすじをもとに、場面カードの一部を書く。	あらすじの整理 ワークシート (場面カードの文の一部となる)	○	◇繰り返し表現の中で、場面ごとに違うところを、観点をもとに整理してまとめることができる。
6	○教材文の中で「大きく変わったことは何か」をおさえる。 ・「はじめ」の場面(P.78 の場面)と、「おわり」の場面(P.85 L6~)をくらべて読む。 ■はじめは食べようとしていたのに、ひよこたちをまもったよ。 ■大きく変わったのはきつねの気持ちだね。 ■気持ちが分かると場面カードが作れそうだよ。	あらすじの整理	○	◇場面カードの提示をもとに、「はじめ」と「おわり」との間のきつねの気持ちのちがいに気づくことができる。 ●「はじめ」「おわり」のだけでは、きつねの気持ちにつながりがないことを気づかせる。
7 8 9	○前時までのあらすじをもとに、きつねの行動の様子を振り返る。 ○行動をもとに脳内マップを作る。 ①ひよここと出会った場面 ②あひると出会った場面 ③うさぎと出会った場面	脳内マップ	○	◇あらすじで整理した言葉などをもとに、理由をもってきつねの気持ちを表すことができる。 ◇書かれていることをもとに、脳内マップの色をまとめることができる。 ●前時までの学習を、教室掲示などをもとにふり返らせる。
10	○これまでの自分をふり返り、わらってしんだきつねが、何を恥ずかしく思っていたのか想像する。 ■今までの場面で、食べたい気持ちとうれしい気持ちがあったから、はずかしかったのかな。 ■繰り返し場面は大切だね。	ワークシート	○	◇これまでのきつねの行動や、脳内マップを手がかりにして、きつねの気持ちを想像しワークシートにまとめることができる。 ●個別に、これまでの読み取りを振り返りながら読み取りの観点を持たせる。
11 (本時)	○きつねがどんな行動をしていたかを想像し、場面カードの文を書く。	場面カード	○	◇繰り返しのなかでの気持ちのちがいを生かして文を書くことができる。 ●前時までの学習から、工夫するポイントを確認して重点的に練習させる。
12	○「がぶり」「にやり」などの言葉を本文中から見つけ、それらの表現を自分の文に生かして書く。		○	◇前時に作った場面カードの文を、学習した言葉をもとによりよい表現にしている。 ●具体的な例を示しながら考えさせていく。
13 14	○場面の絵の様子を想像して描き、場面カードを完成させる。 ・どんな表情をしていたか ・どんな身振りをしていたか	場面カード	○	◇繰り返しのなかでの気持ちのちがいを活かして文や絵をかくことができる。 ●工夫するポイントを確認しながら取り組ませる。
15	○場面カードを交流する。 ・班ごとに交流する。	考えの交流	○	◇友だちの発表について、良かったところを見つけ、積極的に伝えようとしている。 ●練習のときの観点をもとに、自分と比較しながら発表を聞かせる。

8 本時の展開(11/15)

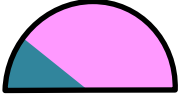
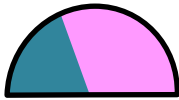

(1)本時の目標

○繰り返し場面のつながりを意識して、場面カードの文を書くことができる。

(2)本時の展開

	○児童の主な学習活動 ■予想される反応	○教師の働きかけ □評価 ◆発問
見通す	○前時までのきつねの気持ちの動きをふり返る。	○教室に掲示してあるあらすじや「脳内マップ」をもとにふり返らせる。
	読みとったきつねの気持ちを生かして場めんカードを作ろう	
追究する	<p>○きつねの行動を、読み取った気持ちをもとに順番に整理する。</p> <p>・「それはやさしく食べさせた」「それは親切だった」「そうとも、かみさまみたいにそだてた」の文を見て、どの順で書かれているときつねの気持ちが伝わるかを考える。</p> <p>■きつねのうれしさは少しずつ増えていっているんだから、「やさしく」→「親切」→「かみさまみたい」だと、盛り上がっている感じが出るね。</p> <p>■ほかにはどんな行動があるかな。</p> <p>○文中には書かれていないきつねの生活について想像を広げアイデアを出し合う。</p> <p>・前時までのワークシートの交流をする。</p> <p>・自分の生活経験と結びつけて考える。</p> <p>○出た意見を参考にしながら文を作る。</p> <p>■寝るときは、もしかしたらうれしいことを思い出してどんどん眠れなくなるかもしれないな。</p> <p>■ぼうっとしてお風呂に入る時間が長くなるかもしれないぞ。</p>	<p>◇どの順で書くと、きつねの気持ちにつながりがあるでしょうか。</p> <p>○行動の文は順番をバラバラに示すようにする。</p> <p>○前時までの脳内マップをもとに、文中の表現ときつねの気持ちとのつながりを理解させる。</p> <p>□評価1</p> <p>読み取った気持ちをもとに、きつねの行動の順の組み立てを理解することができる。</p> <p>○児童の考えを板書し、想像を広げる手がかりにさせる。</p> <p>◆自分や家族が普段家でしていることで、きつねもしていそうなことはないでしょうか。</p> <p>○自分の生活経験と結びつけて考えさせる。</p> <p>○うまく場面を想像できない児童については、机間指導のなかで、具体的な場面を例示しながら想像させていく。</p> <p>□評価2</p> <p>想像したきつねの行動場面を、繰り返しの3つの段階がわかるように書くことができる。</p> <p>○完成した児童から、自由に交流してよいことを伝える。</p> <p>○交流を聞きながら、良い点やアドバイスを伝えられるよう促す。</p> <p>○次の時間は、教材文のよいところを学んで、さらにいい書き方に文を直していくことを伝える。</p>
振り返る	<p>○ワークシートを交流する。</p> <p>・教室を歩きながら、ペアを見つけできたところまでを交流する。</p> <p>・交流が終わったら違う相手を見つけてさらに交流する。</p> <p>■友達の考えを聞いたら、イメージがもっとわいてきたよ。</p> <p>○次時の見通しを持つ。</p>	

(3)板書計画

<p>うさぎと出会った</p>  <p>※児童の考え (ワークシートから)</p> <p>そうとも かみさまみたいに そだてた。</p>	<p>あひると出会った</p>  <p>※児童の考え (ワークシートから)</p> <p>それは 親切だった。</p>	<p>ひよこと出会った</p>  <p>※児童の考え (ワークシートから)</p> <p>それは やさしく 食べさせた。</p>
---	--	---

きつねのおきやくさま
あまん きみこ
読みとつたきつねの気もちを
生かして場めんカードを作ろう

書きかたを少しずつ
かえると気もちがつたわる

(4)座席表

《 省略 》